

## 2023 年度事業計画

### 1. 総務委員会

総務委員会は、理事会の下で各委員会と協力して学会活動を円滑に進めて行きます。今年度の主要な活動計画は以下の通りです。

#### 1) 財政

収入の維持・増加のために、会員増強活動を行います。また、シンポジウムやフォーラムの収支バランスの改善による各行事の黒字化を目指します。さらに、事業内容の見直しも含め、財政の健全化を実施します。

#### 2) 会員増強

関連委員会との協力の下に会員増強を進めます。春季、秋季の信頼性シンポジウム、フォーラム、見学会および研究会等の活動を活発に行い、また、非会員の参加者数の増加も含め、本学会の存在を広く認知させます。

#### 3) フォーラムおよび見学会の実施

会員のニーズに沿う、かつ新規会員の獲得に貢献できるような本部主催のフォーラムおよび見学会を実施します。フォーラムについては、ハイブリッド開催など、アフターコロナ時代に即した実施方法を検討いたします。

#### 4) 関係学会等との協力

新規会員の獲得、会員の発表および情報収集の場の提供のため、関係学会等との協力を行います。

安全工学シンポジウム 2023、第 14 回横幹連合コンファレンスおよび電子情報通信学会・信頼性研究会等の開催に、例年通り積極的に協力します。

#### 5) 国際交流

2023 年 7 月に中国・雲南省・昆明市にて開催予定の、The 13th International Conference on Quality, Reliability, Risk, Maintenance, and Safety Engineering (QR2MSE 2023) に協賛いたします。本学会からは、土肥正前会長が Honorary Chair、早川有会長、井上真二氏、金路氏、田村慶信氏、Xiao Xiao 氏が Technical Program Committee Member として参画し、国際会議の盛会に向けて支援いたします。

2023 年の秋季シンポジウムか若しくは信頼性フォーラム等で、韓国信頼性学会との International Session を設けて、連携活動を実施いたします。

また 2023 年度も、若手学会員を対象に、海外で開催される国際会議において講演するための渡航費用等を補助するための国際交流助成金の募集をいたします。

### 2. 広報委員会

2023 年度は対面も併用したハイブリッド型の希望が増えることと予想されることから、すでに購入済みの機材等を活用して、効果的に運用できるよう検討いたします。シンポジウムのマルチセッションなど、Microsoft Teams の機能を有効活用することも検討いたします。

### 3. 編集委員会

編集委員会で検討した 2023 年度の年間計画（案）を下表に示します。

| 発行年    | 発行月   | 種類   | 内容・テーマ                       |
|--------|-------|------|------------------------------|
| 2023 年 | 4 月号  | ニュース | 信頼性ニュース（学会ホームページに掲載）         |
|        | 5 月号  | 展望   | 災害対策の定量的設計                   |
|        | 6 月号  | ニュース | 信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）       |
|        | 7 月号  | 展望   | ICT を活用した交通システムの高安全化・高信頼化（仮） |
|        | 8 月号  | ニュース | 信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）       |
|        | 9 月号  | 展望   | 検討中                          |
|        | 10 月号 | ニュース | 信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）       |
|        | 11 月号 | 展望   | 検討中                          |
|        | 12 月号 | ニュース | 信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）       |
| 2024 年 | 1 月号  | 展望   | 検討中                          |
|        | 2 月号  | ニュース | 信頼性ニュース（学会ホームページに掲載予定）       |
|        | 3 月号  | 展望   | 検討中                          |

- 1) コロナ禍の状況を考慮しつつ、会員サービスの向上に向けて、継続的に記事・企画の模索ならびにコラム欄の活用なども検討・実施して参ります。
- 2) 展望のテーマにおいては、信頼性分野のテーマについて広く取り扱うとともに、今後多くの会員に読んで頂ける記事の構成に引き続き工夫をして参る所存です。

これまでの会誌に掲載された展望記事やニュースについて、ある一定期間経過後に一般公開するなど学会としての社会的貢献のあり方について、継続的に検討したいと考えております。

#### 4. 論文審査委員会

2023 年度について新型コロナウイルス感染症蔓延の状況も鑑みながら、以下の計画をお示し致します。

- 1) 論文審査委員会はオンラインを基本として開催致します。
- 2) 研究分野の拡大に対応して、より多くの論文が投稿されるように、引き続き投稿推奨の方策について検討します。
- 3) 掲載論文数の増加を目途に、信頼性学会誌からより有効な情報・優れた論文の発信を目指します。
- 4) 論文投稿後の審査員の決定、審査期限の厳格化などを含めて審査プロセスの迅速化を実現する方策について検討します。
- 5) 2023 年度は 8 編以上の論文投稿の受付、5 編以上の論文掲載を目標といたします。
- 6) 高木賞候補論文の選考を行います。

#### 5. シンポジウム実行委員会

第 31 回春季信頼性シンポジウム（特別講演および一般発表）を 2023 年 6 月 1 日に対面とオンラインを併用するハイブリッド形式で開催する予定です。開催準備と運営のために委員会を 1 回、発表者との接続確認を 2 回開催し、プログラムの編成等を行う予定です。

第 36 回秋季信頼性シンポジウム（特別講演および一般発表）及び第 32 回春季信頼性シンポジウム（特別講演および一般発表）の開催準備、運営、プログラムの編成等のため、各シンポジウムの優秀賞と若手奨励賞の選定のために委員会を計 3 回、発表者との接続確

認を計2回開催する予定です。

また、シンポジウム当日は、運営及びセッションの司会を務めます。

- 1) 第30回春季信頼性シンポジウム(2022年5月31日 オンライン開催済)
- 2) 第35回秋季信頼性シンポジウム(2022年11月21日 オンライン開催済)
- 3) 第31回春季信頼性シンポジウム(2023年6月1日 ハイブリッド開催予定)
- 4) 第36回秋季信頼性シンポジウム(日時・場所・特別講演:未定)
- 5) 第32回春季信頼性シンポジウム(日時・場所・特別講演:未定)

## 6. 研究会運営委員会

研究会活動を活性化し、成果に結びつけるため、以下の活動を継続して実施します。また、研究会の新設を支援していきます。

- ・研究会の開催案内や活動状況の紹介(学会ホームページや学会誌)
- ・研究会活動の成果発表を推進
  - ー春季・秋季信頼性シンポジウム
  - ー信頼性フォーラム
  - ー学会誌
  - ー日科技連信頼性・保全性・安全性シンポジウム
  - ー安全工学シンポジウム
- など
- ・オンライン会議システムの活用

IEC ディペンダビリティ規格研究会は、諸事情により休会中です。

各研究会の2023年度活動計画を以下に示します。

### 1)安全学研究会(主査:福田光芳氏)【第1種】

#### (1)活動内容

安全学を拠り所とし、技術分野・産業分野を横断する形で安全のための技術を継続的に議論し、共有すべき知見や技術を蓄積・活用することを目的とし、継続して活動します。

#### (2)計画

4回の研究会の開催を予定しています。

第7回 2023年 4月11日(火)

第8回 2022年 7月

第9回 2022年10月

第10回 2023年 1月

#### (3)発表

年度首においては計画なし。

### 2)信頼性試験研究会(主査:松岡敏成氏)【第2種】

#### (1)活動内容

・チュートリアルによる信頼性試験計画の基礎学習の継続を進めます。今年度は、故障物理に基づき、故障を再現する試験計画について理解を深めます。

・昨年度からの継続で、システムレベルの信頼性試験の検討を進めます。とりわけ、試験目的の置き方、試験結果の活かし方に着目して検討を進めます。

## (2) 計画

年6回の開催を予定しています。

### 4月 ① チュートリアル(1)

- ・温度ストレス起因故障の信頼性試験

### ② 年間活動計画の策定

### 6月 ① チュートリアル(2)

- ・湿度ストレス起因故障の信頼性試験

### ② システムレベルの信頼性試験結果の解析手法

### 8月 ① チュートリアル(3)

- ・機械ストレス起因故障の信頼性試験

### ② システムレベルの信頼性試験結果の活用方法

### 10月 ① チュートリアル(4)

- ・ガスストレス起因故障の信頼性試験

### ② 限界試験の活用検討

### 12月 ① チュートリアル(5)

- ・電気ストレス起因故障の信頼性試験

### ② 偶発故障の試験計画

### 2月 年間活動のまとめ

当年度の活動成果のまとめと次年度の活動計画検討

## (3) 発表

### ① 本学会シンポジウムでの活動報告

### ② 関西支部信頼性フォーラムを通じた成果情報共有

## 3) 要素技術安全研究会(主査:川島 興氏)【第2種】

### (1) 活動内容

産業機械、自動車、住宅など幅広い分野に広がった機能安全に関連する規格、法規制及び技術動向を捉え、適切な機能安全の適用に資するための活動を行います。

とくに、IEC 61508、及び安全関連制御に機能安全を適用する関連規格(産業機械、ロボット、自動車、AI 等)の調査を通じて、機能安全規格の理解を深めるとともに課題の顕在化を行います。

また、機能安全に限らず安全に関する幅広いトピックスを題材にディスカッションを行い、知見を広めます。

### (2) 計画

年5回(5月、8月、10月、1月、3月)の開催を予定しています。

### (3) 発表

- ・安全工学シンポジウム 2023 OS「AIの信頼性と機能安全」を企画

- ・秋季信頼性シンポジウムでの活動報告

#### 4)故障物性研究会(主査:佐藤博之氏)【第2種】

主査を土屋英晴氏から佐藤博之氏に,副主査を味岡恒夫氏から西野裕暁氏に交代します。

##### (1)活動内容

会員と研究会の成長が継続的に進むよう研究会の方向付けを適切に行い,更に大きな成果につなげることを目指します。そのために,特に下記について重点的に実施します。

- ・会員の意思を尊重しながら,信頼性・安全性の現場で起きている故障/事故のメカニズム・原因・対策に関する情報共有や議論を通して故障メカニズムの究明を行います。
- ・未然防止に向けた信頼性/安全性評価法の情報共有・議論を行い,体系化を目指します。
- ・成果を公開し,学会/研究会の増強に努めます。
- ・上記を通じ,会員のスキル向上,会員の出身組織のみならず,社会貢献を目指します。

##### (2)計画

年6回(4/28, 6/23, 8/25, 10/27, 12/22, 2/16)の開催を予定しています。コロナの感染状況を鑑み,オンラインと会場集合併用開催にします。昨年度までの時短開催(15:00~17:00)から開始時間の繰上げを検討します。

実行委員会(web)で研究会プログラムや課題と対応策を検討します。また,実行委員の刷新を図ります。

「コンデンサ研究グループ」の成果をまとめます。また,新たな研究グループの立ち上げを進めます。

##### (3)発表

- ・春季信頼性シンポジウム(OS又は一般発表)
- ・秋季信頼性シンポジウム(OS又は一般発表)
- ・信頼性フォーラム「故障物性研究会シリーズ vol.7」
- ・安全工学シンポジウム 2024 OS発表の検討開始

#### 5)半導体デバイス故障解析研究会(主査:二川清氏)【第2種】

##### (1)活動内容

半導体デバイスの故障解析技術の分野において活動を行っている技術者・研究者に限定して,高度な技術・研究レベルでの,密度の高い討論を行います。

- ・研究員が研究中の最新技術の紹介
- ・研究会以外からの招待講演
- ・他の研究会,国際会議,国内会議,論文などで発表された研究・技術

などをベースに,活発な,忌憚のない議論を行い,研究員相互のレベルアップを図りその結果として日本の半導体デバイスの故障解析技術のレベル向上に寄与することを目的とします。

##### (2)計画

年2回の開催を予定しています。日時・場所・発表者は未定です。

##### (3)発表

- ・研究成果の発表予定はありません。

#### 7. 表彰委員会

本年度も表彰委員会を開催し,以下を審議します。

- 1) 2022 年 1 月号から 2023 年 11 月号の間に学会誌「信頼性」に掲載された論文の中から、高木賞を選定するための審議を実施します。
- 2) 第 31 回春季信頼性シンポジウムにおける発表論文の中から、優秀賞 1 件と若手奨励賞 1 名を選定するための審議を行います。
- 3) 第 36 回秋季信頼性シンポジウムにおける発表論文の中から、優秀賞 1 件と若手奨励賞 1 名を選定するための審議を行います。
- 4) 2023 年 1 月号から 2023 年 11 月号の間に「信頼性」に掲載された論文以外の記事の中から、優秀記事コラム賞を選定するための審議を実施します。
- 5) 国際交流助成金  
2023 年度後期に海外で開催される国際会議において講演するための渡航費用等を補助するための国際交流助成金として、応募者の中から助成対象者を決定するための審議を実施します。

## 8. 関西支部

今年度は、コロナ流行前の活発な活動の再現を目指して、取り組んでまいります。

2023 年度の主な活動予定。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1) 第 1 回見学会 | 2023 年 9 月  |
| 2) 信頼性フォーラム | 2023 年 11 月 |
| 3) 第 1 回講演会 | 2024 年 1 月  |
| 4) 第 2 回講演会 | 2024 年 3 月  |

支部信頼性フォーラムは、信頼性試験研究会活動と連携して、開催を進めていきます。なお、講演会、およびフォーラムは会場集合型と Microsoft Teams によるオンライン形式の併用として全国からの参加者を募ると同時に、参加者との間で活発な議論の場となるように努めて参ります。

## 9. 本年度の主な事業の予定（再掲）

- 1) 第 45 回年次総会 2023 年 6 月 1 日（木）
- 2) 第 31 回春季信頼性シンポジウム 2023 年 6 月 1 日（木）
- 3) 第 36 回秋季信頼性シンポジウム 2023 年 日程未定
- 4) フォーラム 2 回、見学会 2 回（新型コロナウイルス感染症拡大状況によって変動あり）
- 5) 各研究会
- 6) 関西支部行事

開催日や内容については、学会誌・信頼性ニュース及びホームページに掲載します。